大統領が紡ぐ物語は、やがて国民全員の物語になる。

西川秀和(にしかわ ひでかず):1977年生まれ。早稲田大学社会科学研究科博士課程退学。早稲田大学社会科学部助手を経て、現在、大阪大学外国語学部非常勤講師。専門はアメリカ大統領の演説分析。近著「オバマ、勝つ話術、勝てる駆け引き」(池本克之氏との共著、講談社)では、オバマがなぜすごいのかを分析、エッセンスを紹介している。

取材・文／石井うさぎ

今年、一月二十日の就任式で、
リンカーン大統領が
使用した聖書に手をあて、宣誓をした
アメリカ合衆国第44代大統領、
バラク・オバマ。
彼の過去のスピーチを集めた本は、
ベストセラーとなり、
人々の心をとらえた。
彼の言葉と語りの力について、
大統領演説の専門家、
西川秀和氏が語る。

聞いて、自分にためる力

従来、彼の話術、つまり「話す」部分に注目がいっていますが、本当は「聞く力」が非常に大きい。話す能力は、スキルの部分が大きく、後天的に身につけるのは簡単ですが、聞く力は経験がないとだめです。彼は、若い頃、地域を改善するコミュニティ・オーガナイザーをやっていて、そこで「聞く力」を身につけました。いろいろな家庭で話を聞き、彼らが共通して思っていることを聞きだす力があって、それを全部一旦自分にためてしまえるんです。それを多くの人々が共有できる言葉に変えて、皆に訴えかける。そもそも人々にとっては、自分の言葉に近いわけですから、響くんです。

自分を問い直す力

オバマ大統領が先天的に優れているのは「常に心の中で、自分自身は一体どういう存在なのか問いかける」作業ができていることです。彼のルーツは、インドネシア、ケニア、アメリカと多様ですから、心の中で自分の存在を常に探求している。若い頃には、ケニアにルーツをたどりにいっています。それは、自分を発見するという、まさに自分史づくりであり、自分の哲学を明らかにすること。そして、自己を問い直すという作業を若いころからしているからこそ、他人に対しても、その心は何を考えているのかが分かるんです。

言葉を預かる予言者としての力

人生の話というのは、自分一人では限界があるんです。たくさんから集め、自分で統合して、教訓として出すのが、彼は上手ですね。自分の話だけでは本当に小さいですから。アメリカの有名な言葉に Vox Populi, Vox Dei. というラテン語があります。「民の声は神の声」です。「一般民衆の声は、神の声として大統領となるべき人におりてくる」と。ちょっとあやしいけれど(笑)、そういう考え方なんです。一般大衆の声を大統領が代弁する。言葉を預かる予言者なんですね。だからこそ、就任式にあれだけ集まってくるんです。正に「巡礼」ですよ。

個人の物語にする力

就任演説や就任式は、極端に言えば一切しなくてもいいんです。慣習上やってるだけで、憲法上は規定がありません。必要なのは宣誓式のみなんです。それでも就任演説をやるのは、アメリカという国に再び生命を与えるためで、ある意味、宗教儀式なんです。アメリカという国は、確かに多様ですが、混ざり合っているのではなくて、ばらばら。例えば、中部は白人ばかりで、逆にヒスパニックはカリフォルニアに集中している。そこで、日頃ばらばらな国が、就任式という装置を通じて、皆一つになる。アメリカは、再統合という仕組みを、就任式で何回もやってるんです。日本にはない仕組みですが、優れた装置だと思います。マインドを気持ちよくいったんリセットして、また新しく自分たちはアメリカ国民なんだという気持ちを持たせるわけですから。

翻訳する力

人は、心の中にモヤモヤした気づかない部分をもっています。「僕らのアメリカはどういう状況にあるんだろう」、「今後どうなっていくんだろう」といった、モヤモヤしたものに対して何か答えがほしいんです。それを聞き出して、しっかりと翻訳し、明確に言語化してあげる。例えばそれが「Yes, we can. 我々はできるんだ。」だったりするんですが、それを人々が聞くと、あ、そうか、その言葉が欲しかったんだ、と思ってしまう。もう勝ちですよ(笑)。

国に命を吹き込む力

就任演説や就任式は、極端に言えば一切しなくてもいいんです。慣習上やってるだけで、憲法上は規定がありません。必要なのは宣誓式のみなんです。それでも就任演説をやるのは、アメリカという国に再び生命を与えるためで、ある意味、宗教儀式なんです。アメリカという国は、確かに多様ですが、混ざり合っているのではなくて、ばらばら。例えば、中部は白人ばかりで、逆にヒスパニックはカリフォルニアに集中している。そこで、日頃ばらばらな国が、就任式という装置を通じて、皆一つになる。アメリカは、再統合という仕組みを、就任式で何回もやってるんです。日本にはない仕組みですが、優れた装置だと思います。マインドを気持ちよくいったんリセットして、また新しく自分たちはアメリカ国民なんだという気持ちを持たせるわけですから。